

【市民提案】

13. 名物・名産品開発

【主旨】

1. 現在川崎宿には、宿としての特色ある名物・名産品が余り多くはありません。
2. 区民に親しまれ、お土産にできるもの、川崎宿を訪れた人が、思わず買って帰りたくなるような、名物や名産品を開発しましょう。

【内容】

1. 名物・名産品の開発

- 「東海道中膝栗毛」の中で紹介され、旅人に親しまれて有名だった「万年屋の奈良茶飯」の他、「新田屋のはぜ料理」や「鶴見の米饅頭」も名物だった川崎宿ですが、現在は宿としての特色ある名物・名産品がありません。
- 特色ある「川崎宿名物・名産品」を開発・商品化し、販売することにより、川崎宿の知名度アップ、地域経済の活性化などの効果が期待されます。
- 「万年屋の奈良茶飯」は、これまでホテルの和食レストランでしか商品化されていませんでしたが、区内の食品業者が川崎宿名物として開発、販売できるよう努めましょう。
- 川崎宿の歴史や文化に裏打ちされた、地域の産物や資源を活用した名物・名産品の開発を進めましょう。
- 開発に当っては、「名物コンテスト」の開催、「名物づくり委員会」の発足など区民の参加をはかり、また、農業者や製造業者の交流を進めながら行うことが重要です。

2. 土産品コンテストの開催

- 川崎宿にふさわしい土産品を開発し、商品化するために、「土産品コンテスト」を開催しましょう。
- 食べ物、工芸品などを、広く一般に募集し、優秀な作品は川崎宿グッズとして売り出しましょう。

江戸時代からの川崎宿近辺の名物

- ・ 万年屋のなら茶飯
- ・ 新田屋のはぜ料理
- ・ 鶴見の米饅頭
- ・ 川崎大師の咳止め飴
- ・ 川崎大師の久寿餅

現在の川崎宿関連商品

- ・ 東照の「六郷の渡し」(和菓子)
- ・ 小林酒造「川崎宿」(日本酒)
- ・ 大師いろは堂「煮蛤弁当」(はまぐり)
- ・ 多摩川の「追分饅頭」

など



万年屋の奈良茶飯は茶飯に豆腐汁、煮豆がついた。